愛仁会グループ法人顧問紹介 Vol.1

愛仁会本部　総務部門（広報担当）

愛仁会グループの法人顧問の先生を紹介するこの企画。
第一弾は愛仁会グループ医療顧問の加納寛也先生にインタビューをしてきました！

愛仁会　医療顧問

加納 寛也 先生

森ノ宮医療大学 保健医療学部 臨床工学科
准教授・副学科長

資格・免許

博士（医学）心臓血管外科学専攻
人工心臓管理技術認定士
体外循環技術認定士
臨床工学技士免許

加納 寛也先生

森ノ宮医療大学

1. 愛仁会グループと加納先生

――愛仁会グループの医療顧問としてされているお仕事についてお聞かせください。

現在は明石医療センターで週に1回、高槻病院では症例に応じて、臨床指導を行っています。また、心臓血管外科や集中治療の先生方と長期管理に関しての提案やディスカッションなども行って、医師・看護師を含めたコメディカルのチーム医療ができるような環境づくりを目指しています。

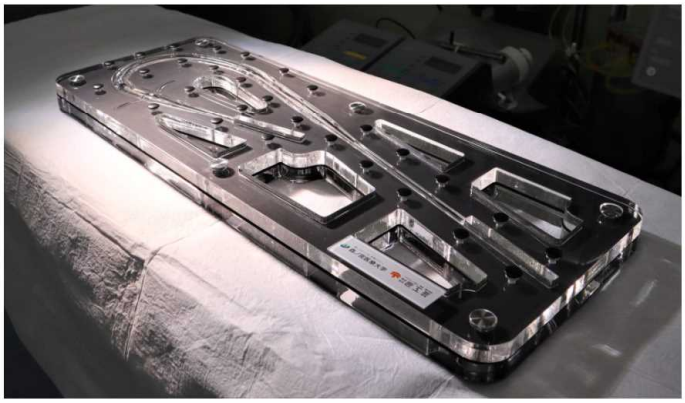
――どういった経緯で愛仁会グループの医療顧問になられたのですか？

私はもともと神戸大学医学部附属病院で、現在高槻病院で勤務されている大北裕 心臓・大血管センター長の下で臨床工学技士として働いていました。大北先生は常に世界トップレベルの手術をされていたので、私も必死でついていき世界的な知識・技術をご指導いただき医療人として育てていただきました。そのため、自分で言うのも何ですが大動脈の手術などの特殊な症例においては、若くして日本トップレベルの技術を身に着けることができました。そのご縁もあって明石医療センターで2年間勤務していました。しかし愛仁会グループでは人工心肺の管理方法は最先端一歩手前だったので、せっかく得た技術を同じ法人グループ内で共有しないともったいないということで医療顧問として臨床指導を行うことになりました。

2. 森ノ宮医療大学と加納先生

――加納先生が森ノ宮医療大学で行っている研究についてお聞かせください。

今行っている研究はいろいろありますが、一つは大動脈の手術時の血液の固まり方に対する輸血療法の研究です。どのタイミングでどういった輸血をしたらいいのか、ということを大北先生と共同研究で行っています。もう一つは、経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）です。現在臨床工学技士がTAVIの治療に関わり始めており、学生たちはその勉強をしなければいけません。学生たちの頭に残りやすいように、私は可視化した教科書を作りたかったんです。そこで地元高砂の町工場と共同開発でTAVI「シミュレーター血管モデル」を作りました。この装置はアクリルで作っているので透明だから中が見えるし、一回模擬治療を体験することでより理解が深まります。実際、学生から好評だったため、模擬血管の中に水を通して圧力をかけたら先生たちのトレーニング用になるのでは、と思い改良し、完成したのがこちらのシミュレーター血管モデルです。



TAVI「シミュレーター血管モデル」

――こちらのＴＡＶＩモデルは明石医療センター以外の愛仁会グループ病院に所属している先生は借りれますか？

はい。無償でお貸しいたします！(笑)　今のところこの装置は一つしかありませんが、今はこれとは別に足の模擬を作ることを来年の研究目標にしています。年齢とともに足の動脈が詰まったり細くなったり石灰化したりという病気があるのですが、その治療を循環器内科の先生がカテーテル的に行うことが多くありますが、足の血管は細くて硬かったりするので同じようにアクリル板で作ってガイドワイヤーの操作ができるような模擬血管を作りたいです。

3．医療と加納先生

――愛仁会グループの先生との思い出話などはありますか？

私が愛仁会グループの医療顧問になってから1か月が過ぎた頃の話です。終業時間10分前に来た急患のCTを戸部智先生から渡されて「加納くんこの症例いけるか？」と聞かれました。CTを見ると、心臓の弁がボロボロで脳梗塞、脳出血をしている患者さんでした。放っておいたら100%亡くなってしまう状態な上に、手術で使用する血液をサラサラにするヘパリンという薬を使うと脳出血が悪化して亡くなってしまうという患者さんでした。

私は大学病院時代に大北先生と脳出血を合併した患者さんに薬を減らして手術を行っていたのですが、この症例は今まで経験したこともないくらいの大出血の患者さんでした。全体的に全員諦めムードの中、戸部先生が1%でも可能性があるのならそれに賭けたいとおっしゃったのでその人工心肺管理技術を使い手術を行ったら成功し、1か月後にその患者さんは歩いて帰られたのです。患者さんが無事に帰宅できたのは、この手術に関わった人、手術後の患者さんに関わった人たちのチームプレイのおかげだと思います、本当に。戸部先生のジャッジはもちろんですが、手術後のケアやリハビリがなければ歩いて帰るなんてできなかったと思うので、多職種連携の大切さを改めて感じました。

――多職種との連携において大切なことは何だと思いますか？

先生方との距離感を縮めることです。治療はもちろん医師がしますが、その管理の方向性についてはみんなで話をするべきだと思います。意見交換はすごく大事なことですし、「あの時本当はこう思ってたのに」というのは絶対にあってはいけないことだと私は思っています。その意見が合っているか間違っているかは関係なく、その時思ったことはチームメイトでも**多職種で共有してほしい**です。また、学位を取ることで机上で先生たちとより深く話す事ができるため、話をしやすいというメリットがあります。なので最近は、**学位を取ることは大切だ**という話をしています。そういった努力をすることで先生方との距離感を縮めることもできるのではないかな、と思います。

森ノ宮医療大学の講師と学生さん

最後に、加納先生から愛仁会グループ職員にメッセージをいただきました。